

|     |                             |    |    |
|-----|-----------------------------|----|----|
| 分科会 | 自分らしい表現（表現：表<br>す・感じる・ひろがる） | 学年 | 3年 |
| 提案者 | 安中市立碓東小学校 森本 千春             |    |    |



## テーマ 様々な材料とふれあう活動から 自分らしい表現を見つける指導の工夫 ～これでかけるよ～

### 1 はじめに

絵を描く活動において、テーマを与えると、子どもたちは、描きたいものを構想し、それをどのように表現するのか描画材の使い方を工夫していくことが多い。しかし、描画材でないものを絵を描く材料として捉え、何になりそうか表現方法を試行錯誤することを通して、自分らしい表現を見つけて表す力と、どのようにして、材料に手を加えたのか表現方法を紹介し合い広げる力を身につけさせたいと考えた。

### 2 実践の概要

#### (1) 題材の内容

本題材は、学習指導要領の3, 4年 A 表現(1) 材料や場所などを基に造形あそびをする活動を通して、次の事項を指導する。ア「身近な材料や場所などを基に発想してつくること」イ「新しい形を作るとともに、その形から発想したり、みんなで話し合っただけで考えたりしながらつくること」をねらいとしている。

「絵を描く」と言えば、鉛筆やクレヨン、絵の具などを発想する子どもたちだが、本題材は、各自が用意した描画材でない材料（糸や布、ビーズ、綿、折り紙など）を使い、線を描き、色を塗る（貼る）という今までの授業の中では経験したことがない新しい表現方法を知る内容である。材料に働きかけ、試行錯誤する時間を多く設けることで、そこからのイメージをもとに、自分が表現したいものを見つけ、表現活動に結びつける力を高めたいと考えた。

#### (2) 目標および評価規準

##### 学習目標

- ・集めた材料を活用し、楽しんで絵に表そうとする。
- ・形、色、材料などの感じを生かして、思いのままに、画面構成をする。
- ・材料からの発想などを友だちと共感的に深め合う。

##### 評価規準

- 【関】材料を選んだり、置き換えたりしながら楽しく取り組もうとしている。
- 【発】材料の感じを生かして発想し、夢のある絵にしようとしている。
- 【創】材料にふさわしい貼り方を見つけ、工夫しようとしている。
- 【鑑】どのように材料を活用したかを楽しく見せ合ったりしている。

#### (3) 学習計画（全5時間計画）

- ・集めた材料を画用紙の上に置いて、並べ替えたり、手を加えたりしながらどんな表現ができるか試す（1時間）
- ・材料の形、色、材質感などを生かして、工夫しながら表す。（2時間）



- ・ 絵の具を使って、表したい絵にしていく。(1時間)
- ・ 友だち同士で作品を見せ合いながら、工夫したところ、知ってほしいことなどを紹介する。(1時間)

#### (4) 授業の実際

| 学習活動   | 支援および留意点  | 児童の様子   |
|--|---|---|
| ○集めた材料を画用紙の上に置いて、並べ替えたりしながら、絵に表す。            | ○集めた材料から表現できる、線・面(色つけ)・点を考えながら目的を持って材料とふれあう時間を設ける。                            | ○はじめは、並べる、広げるなど、置き換える程度の表現だったが、自分の表現したい形へより近づけるために、時間がたつにつれて、つぶす、重ねるなど、複雑な方法を試し、楽しむ児童が見られるようになった。 |
| ○自分が考えた表現方法を紹介する。                            | ○児童が発表した表現方法は、何をどのように使って線・面・点を表現したのか黒板に掲示し、いつでも参考できるようにする。                    | ○線→毛糸やモールをはる・ビーズを並べる・マカロニをつぶす<br>面→折り紙を貼る・布を貼る・つぶした粉を砂絵のようにする<br>点→おはじきやボタンを貼るなど                  |
| ○材料の形、色、材質感などを生かして、材料にふさわしい貼り方を見つけ、工夫しながら表す。 | ○自分が試した方法の中からイメージにあうものを組み合わせ、夢のある絵にしていく。<br>○表現したいもので、足りないものは、図工の材料宝箱(※)から選ぶ。 | ○いろいろな表現方法をすでに試しているの、ほとんどの児童は、線・面・点を組み合わせ、自分の表したい作品へと近づけている。普段絵画に苦手意識を持つ児童も楽しんで取り組んでいる。           |
| ○絵の具を使って表したい絵にしていく。                          | ○できあがった絵に合った色をつけさせる。自然な仕上がりとなるようにタンポで色をつける方法を紹介する。                            | ○タンポでの表現ははじめてだったため、試し紙にいろいろな色を混ぜながら、よりイメージに近い色へと近づけていった。  |
| ○友だち同士で、作品を見せ合いながら、工夫したところ、知ってほしいところ等紹介し合う。  | ○作品の名札に工夫したところを詳しく記入させ、見合う中で、さらに表現方法について質問し合う時間をとり、次回の表現活動へのヒントとなるようにする。      | ○同じ材料でも、まったく違う絵ができることに驚きを見せたり、描画材なしでも、線や面・点の組み合わせできちんと自分の表したいことが表せることに新しい発見をしたりできている様子だった。        |

※図工の材料宝箱→自分に不要の材料を入れ、必要な材料をもらう箱。

なかなか材料を集められない児童にとってのお助け箱にもなっている。

### 3 おわりに

今回は、「描画材を使わずに絵を描く」という私にとって初めての題材だったが、子どもたちの発想の豊かさには感心した。成果としてあげられることは、作りたいものを作るために試行錯誤を繰り返し、工夫をする姿が多く見られたことである。また、絵画に対して苦手意識を持つ児童にとって、すでに形を持つものに手を加え、組み合わせることで表現できることの楽しさを味わわせる事ができたこともあげられる。今まで、試す時間より、作品制作の時間を重視しがちだったが、今回の実践を経験し、今後も、材料とふれあう時間や構想を練る時間を大切にしていきたいと感じた。



|     |                         |    |     |
|-----|-------------------------|----|-----|
| 分科会 | 自分らしい表現（表現：表す・感じる・ひろがる） | 学年 | 中1年 |
| 提案者 | 安中市立第一中学校 久保田美智子        |    |     |

## テーマ 自分らしい発想を広げるための指導の工夫 ～「ボックスアート」の制作を通して～

### 1 はじめに

本校では毎年2学期が始まると1年生は「ボックスアート」を制作している。美術室内に置かれた1年生の作品を見て、2・3年生は「わあ、なつかしい」「私は去年、〇〇な作品をつくったんだ～」「私、(美術の中で)これをつくるのが一番楽しかった」など、自分たちがつくった頃のことを楽しそうに振り返っている。1年生は、夏休みの間に集めていた自分だけの材料を、大切そうに袋や箱に入れて持ってくる。先輩たちの作品を見てワクワクし、真新しいボックスアート用の箱をもらってワクワク。そこに、自分だけの材料を並べてみる。これからどんな工夫をしたら、自分の表したい世界がもっと魅力的になるだろうか。その様々な工夫の方法を知るために、先輩たちの作品をみんなで見つくりと見るところから、本校のボックスアートづくりはスタートする。



「一坪の海の中」



「世界」

### 2 実践の概要

#### (1) 題材の内容

本題材は、学習指導要領1学年の内容「A表現」(1) 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を指導する。イ「主題などを基に、全体と部分との関係などを考えて創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。」にあたるものである。

本題材は、木箱（20×20×5cm、取り外し可能な仕切り板4枚付き）に好きな材料（身近な自然物や人工物）を配置し、自分らしい世界をつくる活動である。

導入の段階では、先輩の作品を見せる。先輩の作品の工夫点をみんなで見ながらじっくりと見ることで、「テーマ」「物の使い方」「並べ方や貼り付け方」の様々な工夫の仕方を知ることができ、自分の制作に役立てることができる。アイデアスケッチの段階では、自分の表したい世界を明らかにし、それに見合った材料の配置、背景の色彩を考えていく。彩色の段階ではアクリルガッシュを使い、箱や仕切り板に自分の考えた色を丁寧に彩色していく。材料を接着する段階では、実際にボックスアートの中に材料を配置し、納得のいくまで並べ方を考えてから貼り付けていく。これらの活動を通して、自分なりに表現することの楽しさや、つくる喜び、達成感を味わうことができる題材であると考えられる。

#### (2) 目標及び評価規準

##### ①目標

身近にある自然物や人工物を生かして自分の世界を作品として表すことで、立体作品をつくることの楽しさを味わうことができる。

##### ②評価規準

|          |                             |
|----------|-----------------------------|
| 関心・意欲・態度 | ボックスアート制作に興味をもち、意欲的に制作している。 |
|----------|-----------------------------|

|          |  |
|----------|--|
| 発想や構想の能力 | 自分の表したい世界を大切に材料は何を用いるのか、背景はどのようにすれば自分らしい世界を表現できるのか構想を練ろうとしている。 |
| 創造的な技能   | 材料のもつ特性を生かし、色や配置を考えながら立体作品を制作している。                             |
| 鑑賞の能力    | 自他の作品を見合い、よさや美しさを感じ取ろうとしている。                                   |

### (3) 学習計画

- ・先輩の作品を鑑賞し、様々な工夫を知る。 (1時間)
- ・アイデアスケッチをする。 (2時間)
- ・箱に彩色し、材料を接着する。 (5時間)
- ・お互いの作品を見合う。 (1時間)

### (4) 授業の実際

| 学習活動                              | 支援及び留意点  | 生徒の様子  |
|-----------------------------------|--|--|
| ○オリエンテーション<br>(夏休み前)              | ○どんな作品をつくるか、参考作品を見せ、材料集めのポイントを説明する。  | ○意欲のある生徒は箱のサイズを測っていた。  |
| ○先輩の作品を鑑賞し、様々な工夫を知る。<br><br>(1時間) | ○先輩の作品をプロジェクターで映し出す。<br>○実物も数点用意して見せる。<br>○先輩の作品の工夫点は、なかなか自分から気付くことができない生徒が多い。視点を話して聞かせたり、注目させたい部分を拡大して見せたりして、気付きを促す。  | ○とても興味をもって先輩の作品を見ていた。<br>○感想を書かせると、「先輩の作品はすごい」「早くつくりたい」「私は○○な感じの作品をつくりたい」等、感動や意欲の高まりを感じ取ることができた。   |
| ○アイデアスケッチ<br><br>(2時間)            | ○実際に箱の中に材料(自然物や人工物)を並べて、位置や向きなどを確かめさせる。<br>○自分の表したい世界を明らかにするよう背景を考えさせ、色鉛筆で彩色させる。<br>○背景が思い浮かばない生徒には、どんな場面? 周りに何があるの? 何色の壁にする? などと発想を促すヒントを与える。<br>○2つ以上描いて、気に入った方のアイデアを選ばせるようにする。  | ○まずは並べてみることに夢中になっていた。一通り並べ終わってからアイデアスケッチを描き出す。多くの生徒は2時間かけて描く。<br>○材料を並べてみることで自分の表したい世界のイメージが広がる様子である。材料と材料の関係を考えて工夫したり、新たに追加する材料を考えている生徒もいる。         |
| ○制作<br>・箱に彩色する。                   | <b>【刃物を使う場合】</b><br>○仕切り板を切りたい生徒は、彩色する前に電動糸のこ機で切らせる。<br>○カッターや電動糸のこ機などの刃物を使う生徒がいたら、安全に気をつけて作業ができるように助言する。<br><b>【彩色の段階】</b><br>○箱の素材が木でできているため、発色をよくするためにアクリルガッシュを濃く(水は2~3割)塗るように助言する。<br>○彩色した仕切り板や箱を乾かす時は、新聞紙等に貼り付かないように注意を促す。 | ○制作過程全般を通して意欲的な生徒が多かった。<br>○仕切り板を切ったり、穴を開けたりと加工する生徒もクラスに数人いるので個別指導した。<br>○絵の具の扱い方に慣れるまで約1時間、すべて塗り終わるのに2~3時間かかる生徒が多い。<br>○貼り付ける作業より、色を塗る作業に時間がかかっていた。 |
| ・材料を接着する。                         | <b>【接着の段階】</b><br>○実際にボックスアートの中に材料を配置し、納得のいくまで並べ方を考えてから貼り  | ○箱や仕切り板に色を塗るだけでなく色紙や布を貼る生徒もいた。<br>○実際に並べて完成をイメージすることでよりよい工夫を考えたり、友だちが持ってきた材料を見て新たな   |

|                       |   |   |
|-----------------------|---|---|
| (計5時間)                | 付けていくようにさせる。<br>○「木工用ボンド」「他用途接着剤」「瞬間接着剤」「グルーガン」の4種類について用途と注意点を掲示し、使い分けるよう助言する。<br>○生徒にも、各自一本は自分用の接着剤を用意するように促す。 | 工夫を思いついたりして、工夫に広がりが見られた。<br>○接着剤を使う時は、掲示物を見たり、教師にたずねたりして自分の作業に合った物を選ぶことができた生徒が多かった。 |
| ○お互いの作品を見合う。<br>(1時間) | ○自他の作品を見合い、相手の作品のよさや工夫点をカードに書かせる。相手の気持ちを考えて言葉を選ぶよう助言する。   | ○カードに相手の作品のよい点を記入させたが、言葉を選ぶのに時間がかかっていた。   |

### 3 おわりに

毎年、昨年の先輩たちの作品の鑑賞から入り、感動と興味をもって制作に入ることができている。先輩の作品から様々な工夫の方法を学び、生徒の多くが自分の制作に生かすことができていた。

アイデアを練る過程や、制作の過程で、実際に並べてみるという作業を取り入れた。これにより、サイズの問題や自分の表したいイメージを確かめながら進めることができたので、アイデアスケッチの段階の構想通りに作品を仕上げることができ、大きな失敗もあまり見られなかった。

個別指導では、困っている生徒や、相談に来た生徒の思いを引き出しながら支援することを心掛けてきた。毎時間記入させていた制作カードも、支援が必要な生徒の把握に役立った。

生徒の中には、自分の技量以上に、細かく複雑な部品をたくさんつくっていて最終的に時間が足りなくなり、満足いくものに仕上げられなかった生徒がいた。今後の課題としては、限られた時間や、生徒の技量、生徒が使おうとしている材料を考慮して、的確なアドバイスができるようにしたい。